

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「想どうしたことをつたえ合おう」 教材名「モチモチの木」

2 単元の目標

人物の気持ちや性格を表す語句を確かめ、自分の説明の中で使える。豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人物の気持ちや性格を表す語句を確かめ、自分の説明の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明している。（C(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、場面によって異なる姿を説明する。臆病か勇敢かという二択だけで決めず、何をきっかけにどんな行動をしたかを確かめる。学習指導要領のC(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

日常の行動と大きな出来事での行動を並べ、行動の理由になる叙述を探す。想像した気持ちは事実の行動と区別して書く。おおむね満足できる状況は、豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、豆太への最初の印象を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○日常の豆太の行動を読み、性格や気持ちを考える。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○大きな出来事での行動を読み、きっかけとなる叙述を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6 （本時）	○いつもの行動と比べ、同じ点と違う点から豆太について考える。	思①（発言・学習記録）
	7	○人物メモを基に、叙述を根拠にした説明文を書く。	学習状況を見て支援する。
	8	○考えを交流し、違う根拠や気持ちの表し方を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○物語を読み直し、豆太への見方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」 【めあて】豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、場面によって異なる姿を説明する。 〈予想される児童の反応〉 ・いつもと違う行動をしている。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・いつもと違う行動をしている。 ・急に性格が全て変わったとは言えない。 ・相手を思う気持ちを行動から考えたい。	日常の行動と大きな出来事での行動を並べ、行動の理由になる叙述を探す。想像した気持ちは事実の行動と区別して書く。 想定する難しさ：性格が全面的に変わったと単純化する。本文にない台詞や気持ちを書き足す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 豆太の行動や気持ちを叙述から捉え、いつもの様子と比べて考えを説明している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・相手を思う気持ちを行動から考えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「豆太のどんなところが、この行動に表れていますか。いつもの様子と比べると、何が同じで何が違いますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

